

歴史的風致形成建造物 指定台帳

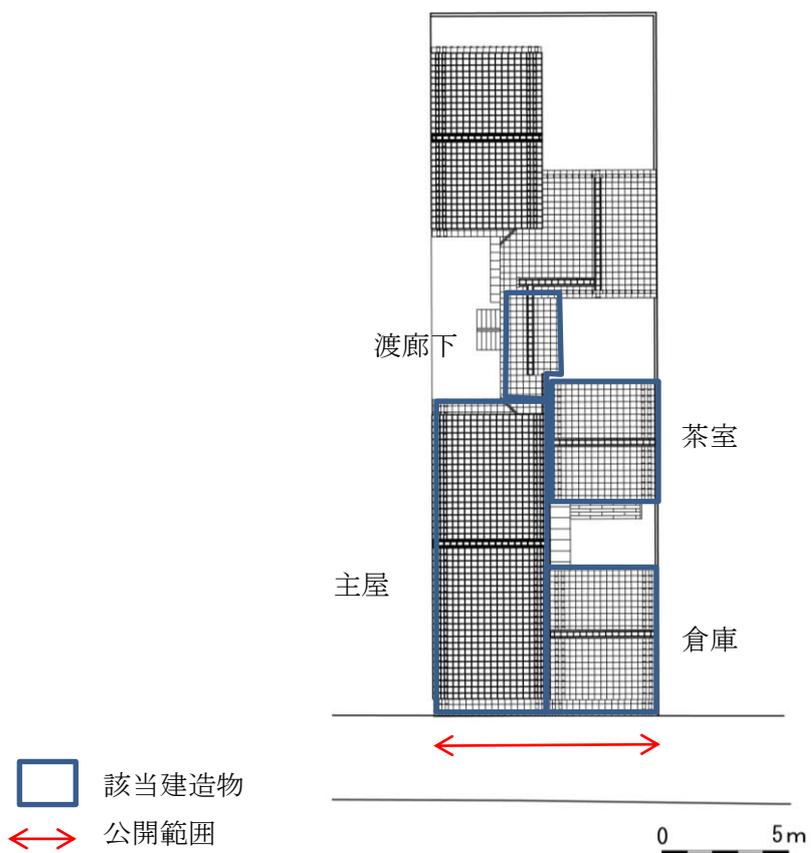
指定番号	22	名称	西村邸	
指定年月日	R2.2.3	所在地(指定地)	奈良市花園町 20、21 番地	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	大正4年	木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
指定建造物	渡廊下	建築年代・概要	大正末～昭和前期	木造平屋建、切妻造、棧瓦葺
指定建造物	倉庫	建築年代・概要	大正末～昭和前期	木造つし二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
指定建造物	茶室	建築年代・概要	大正末～昭和前期	木造平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>花園町は、古くは元興寺の花園があったと考えられている場所である。</p> <p>当地は東西道路に南面する。現所有者の祖父・西村乙五郎は、明治42年に敷地西半、大正12年に東半を購入した。敷地西半にある主屋と離れは、棟札から大正4年の建築とわかる。東半にある倉庫、茶室、納屋は、昭和前期までに乙五郎が建てたとみられ、主屋・離れ間の渡廊下もそれらと同時期のものであろう。乙五郎は当地で質屋を営んでいたと伝わるが、息子の代には質屋を辞め、以後、住宅として使用。東側の倉庫は貸家として使用された時期もあるが、現在はカフェ、レンタルスペース、民泊、住居として使用されている。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は、通りに面して建つ木造二階建の町家である。1階正面は引違戸と平格子を入れ、持ち送り金物を用いて庇桁を支える。2階には大きな格子窓を入れ、軒は出桁で受け、袖卯建を設ける。建ちが高く近代の町家らしい外観である。内部は東側を通り土間とし、西側に1列3室の居室を並べる。敷地拡張に伴い、東妻面中央に倉庫・茶室間の庭への出入口を設けており、数寄屋風の意匠としている。</p> <p>倉庫は、主屋東側のつし二階建てで、つしに袖卯建や開口を設ける。1階正面は令和元年の修理の際に復原し、格子を建て込んでいる。正面に戸口の痕跡がなかったことから主屋や茶室と一体的に利用されていたとみられる。</p> <p>茶室は、主屋の東側北寄りに建ち、南北は庭に面する。床の間と棚を設けた5畳の茶室で、良材を用い、円窓、自然木や竹を用いた軒等、細部まで意匠を凝らした造りである。</p> <p>渡廊下は、主屋北側、通り土間の延長にあり、床は張らず土間とする。下地窓や皮付丸太を用い、西面に付く釣瓶の支柱を自然木とするなど、数寄屋風の建物である。</p> <p>改修履歴) 大正末～昭和前期 主屋東妻に出入口設置。 昭和後期 倉庫1階を車庫に改造。 令和元年 倉庫正面復原、主屋・倉庫内部改修</p>			
活用	カフェ、レンタルスペース、民泊、住居として活用。			
価値	主屋は整った外観を示し、附属屋も町家の屋敷構えを伝え、茶室を設け数寄屋風意匠を取り入れる点は町家の暮らしに茶の文化が溶け込んでいることをよく示しており、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致及び茶の文化にみる歴史的風致の維持向上に寄与する。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図



配置図